第45回 子規顕彰 小中高校生俳句大会

上記大会の表彰式が、平成22年11月23日に子規記念博物館で開催されました。応募8575句から選ばれたグランプリ4句を含む特選句134句を紹介します。○は複数の選者に選ばれた句です。（敬称略）

小学校1～3年生の部 グランプリ

あたらしい えんぴつ一本 なつのかぜ

玉井　彩日（生石小2年）

「まだ使ってないえんぴつもあるんだよ」ってニッコリ笑顔の玉井さん

夏休み前お母さんが買ってくれた新しいえんぴつを、夏休みを楽しみにわくわくしながら見ている時に、まどから風がふいてきたことをはいくにしました。先生から「はいくが入せんしたよ」と言われびっくりしたけどすごくうれしかったです。これからもはいくをたくさん作りたいです。

小学校4～6年生の部 グランプリ

家族ふえ 二台目買った せんぷうき

薬師寺　柊太（石井北小4年）

「また夏に活躍してよ」とせんぷうきにお願いする薬師寺くん

7月に生まれた妹の顔を見て、「ぼくも、お兄ちゃんになるんだな」と思いました。夏休みにおじいちゃんの家に遊びに行った時、店にあるせんぷうきを見付け、「妹のせんぷうきがあればいいな」と思いました。そして、ぼくの家にはもう一台のせんぷうきがふえました。

小学校 1～3年生の部

金子　房江　選

マスクでもえがおがわかるつうがくろ　中西　優奈（久米2）
朝おきてまくらにあせの地図記号　岡田　秀太（たちばな3）
からっぽのじどうくらぶにせみがいる　小畑　里菜（双葉1）
クローバーしょうせつ百ページ目にはさむ　林　梨花（双葉3）
なくたびに妹の口にかき氷　大田　大生（湯築3）
ばあちゃんのひざになの花車いす　影内　彩寿奈（桑原3）
かあさんにはなまるもらったひやけがお　渡部　裕馬（小野1）

柴川智恵子　選

きんぎょたちえさのおねだりフラダンス　大窪　優斗（姫山1）
すべりだいぼうしもあせもふきとばす　尾崎　太一（垣生1）
○いちごがりほっぺたぷくりまたぷくり　懸田　春佳（石井東2）
せみの羽化見まもりつづけた星の下　久保　奎悟（さくら3）
めいたんていちょこをかぎつけすこしだけ母にあげたい夏休み　立花　一陽（浮穴2）
くろいたねにゅうどうぐもまでとんでいけ　伊井　大航（さくら2）
さあ本ばんそとではせみもコンクール　藤原　寧瞳（河野3）
入道雲高なわ山とけんかする　門田　瑞希（北条3）

吉見香奈子　選

ウォータースライダーすべる夏の空　西村　虎太朗（素鷺2）
○あたらしいえんぴつ一本なつのかぜ　玉井　彩日（生石2）
せみの声じいちゃんきじゅのおいわいだ　豊嶋　毅耀（潮見3）
八月六日「おこりじぞう」の本を読む　宮崎　聡一朗（双葉2）
てをあわすごせんぞさまへももください　和田　都希世（たちばな1）
大すきなさんまがいないばんごはん　佐伯　美祐（双葉2）
大外がりまけたじゅうどうなつの雨　阿部　響人（窪田2）

高須賀智子　選

○あたらしいえんぴつ一本なつのかぜ　玉井　彩日（生石2）
○いちごがりほっぺたぷくりまたぷくり　懸田　春佳（石井東2）
もぐりっこ上にあがって夏の雲　永井　七夏海（窪田1）
ドッジボール外野に出たら夏の風　大塚　愛子（さくら3）
このトマトあしたたべるよよやくすみ　谷村　弘香（北久米2）
すずむしにまけないくらいうたがすき　堀内　望結（石井北1）
なつぼうしちいさなみちをとおりぬけ　今井　瑛愛（久米2）

吉岡亜紀子　選

かわあそびとんでながれてぼくさかな　杉原　虎太朗（宮前1）
きもだめしもう行かないときめた夜　高橋　駆海（番町2）
うぐいすにまけずに口ぶえふいてみる　新田　恭一朗（堀江2）
ありのみち　和田　明日香（東雲1）
うきわ乗り流れるわたし回転ずし　中島　凜香（湯築3）
おぼんの日じゃしんのじいちゃんわらってる　山瀬　桃子（湯山2）

高瀬　浩介　選

観覧車入道雲と手をつなぎ　大野　訓住（素鷺6）
金魚すくい見たこともない友の顔　島田　幸希（東雲4）
ぼくが切るまがったきゅうりの向きをかえ　久保田　晃士（石井東5）
ゆかた着ていつものほほばせまくなる　面地　優香（姫山5）
じいちゃんとにっこり目が合うせんこう花火　猪石　麻世（浮穴5）
ひじいため入道雲とただ走る　小西　令馬（味生第二5）
あと二問とけずに待ってよかき氷　宇佐　英香（愛大附属6）

谷井　紀夫　選

おぼんの日十一人分はしならべ　村上　穂乃佳（湯山6）
ばあちゃんの昔の話とところてん　大西　愛弥（道後4）
梅雨の夜手術の祖母をずっと待ち　豊田　悠介（石井東6）
父の日に帰った兄と肩たたき　亀川　巧（津和地4）

小学校 4～6年生の部

茨木　里子　選

川の字が右に左に熱帯夜　枡見　勇星（味酒6）
打ち水をぬけてくる風深呼吸　宮田　紋圭（さくら4）
クマゼミも黙る真昼の一時間　二宮　明日香（たちばな6）
じいちゃんの愛情ほおばる熟スイカ　増渕　花音（みどり5）
ぼくのかげ「パクリ」と食べた夏の雲　豊島　滉樹（窪田5）
夏の山後ろ歩きで母を待つ　菅　みなみ（湯築6）
猛暑日のニュースで覚えた市町村　白方　聖也（荏原6）

大久保礼子　選

かみなりもマウンドに立つ決勝戦　齋藤　太一（堀江4）
ねつ出してまど半分の花火かな　原　章也（北条4）
シュートうつ汗がジャンプのじゃまをする　田中　優衣（小野4）
母さんの日傘がゆれる応援席　村越　亮太（窪田6）
夜げいこカエルに負けじと面を打つ　土屋　隆紀（湯山6）
ピン球を打ち返す友のあせ光る　中野　佳奈美（中島6）
何もかも憎く思えるこの暑さ　八島　朋子（東雲5）

高瀬　浩介　選

観覧車入道雲と手をつなぎ　大野　訓住（素鷺6）
金魚すくい見たこともない友の顔　島田　幸希（東雲4）
ぼくが切るまがったきゅうりの向きをかえ　久保田　晃士（石井東5）
ゆかた着ていつものほほばせまくなる　面地　優香（姫山5）
じいちゃんとにっこり目が合うせんこう花火　猪石　麻世（浮穴5）
ひじいため入道雲とただ走る　小西　令馬（味生第二5）
あと二問とけずに待ってよかき氷　宇佐　英香（愛大附属6）

谷井　紀夫　選

おぼんの日十一人分はしならべ　村上　穂乃佳（湯山6）
ばあちゃんの昔の話とところてん　大西　愛弥（道後4）
梅雨の夜手術の祖母をずっと待ち　豊田　悠介（石井東6）
父の日に帰った兄と肩たたき　亀川　巧（津和地4）

中学校の部 グランプリ

枝豆を 無言で食す われと父

直野　創太（拓南中1年）

「食べた後は会話がはずんだよ」と話す直野くん

夏の夜に、父と一緒に食べた枝豆があまりにもおいしく、話すのも忘れ2人で無心に食べたことを詠んだ俳句です。受賞の知らせを聞いた時「そんな、ばかな」と思いましたが、今では自慢できる誇らしいことだと思います。これを励みに、またいい句を作りたいと思います。

高等学校の部 グランプリ

弓を引く 一瞬せみの 声消える

池田　遥（松山南高1年）

「でも弓道が一番好きです」と弓を握り締める池田さん

高校生活で出会った弓道に、ひたすら心を奪われていた私の夏休みは、部活動一筋でした。筋トレの後、やっと射場で練習できる喜びで、周りの声が聞こえないくらい熱中して弓を引いていたことを思い出し、この句を作りました。弓道のおかげでいい俳句ができたことをうれしく思います。

○家族ふえ二台目買ったせんぷうき　薬師寺　柊太（石井北4）
バス待ちの間にも麦茶の一気飲み　松田　七瀬（生石6）
食べごろのすいかをからすに味見され　吉倉　辰哉（正岡4）

向井　京子　選

衣がえ去年のかおりのダンボール　清家　樹璃（北久米5）
新品のくつをおそったゲリラ雨　和田　拓己（桑原6）
しがみつく力ぬけずにせみのから　玉井　華（桑原6）
○家族ふえ二台目買ったせんぷうき　薬師寺　柊太（石井北4）
食べごろのすいかをからすに味見され　吉倉　辰哉（正岡4）

中学校の部

片山　信二　選

十二歳兄と離れて歩く夏　押岡　星里奈（済美平成1）
雲の峰逆三角なり背面跳　元屋地　祐太（南第二3）
決勝戦ボトル手渡す腕の汗　松田　穂乃香（北条北1）
絵手紙で苦手なトマト向かい合う　合田　晟祥（みどり5）
父のかげ入って青待つ炎天下　倉橋　聡子（清水5）
夏最後きんちょうして見るランドセル　高橋　創丸（浅海6）

○枝豆を無言で食すわれと父　直野　創太（拓南1）
花火大会踏み込むベダル強くなる　一色　なみ（津田1）
○夜ごと来るやもりに心癒されてゆったりと留守番をする金魚かな　大野　雄生（済美平成2）
　高橋　優花（小野2）

仲岡　美和　選

会えたねとあじさい笑うぼっぽっと　河野　由佳（旭3）
夏祭り行かずこっそり勉強中　中村　亮（北条南3）
若い字は苦いという字に似てる夏　岡田　鈴菜（鴨川3）
背番号はずして終わる僕の夏　池田　優（桑原2）
爪長し昨日までは夏休み　河村　杏実（松山西3）
コオロギよ人の心が読めるのか　長曽我部　冴香（拓南1）
秋が来る何でもやろうと試みる　大濱　康平（雄新2）

西川　紀子　選

うしろから夏を連れ来る下駄の音　生田　海斗（松山西2）
今朝既に何処にもいない燕の子　光宗　渓杜（済美平成2）
水替えて大きく見えるメダカかな　井上　詩菜（済美平成2）
猛暑日がメダカの鉢の水を呑む　竹内　綾佳（済美平成2）
かまきりが草木に化けて姿消す　下元　理布（余土3）
秋風が五時半の影刈りとった　大中　博鶩（愛光3）
君について行けばいいのかアリの列　山本　梨央（小野1）

安永　元生　選

おにごっこけても笑った冬の空　池田　香菜子（久米1）
雨降るかカーブミラーに積乱雲　高田　佳弘（西3）
ひまわりを見上げるいとこと空バケツ　越智　渚（松山西1）
雨したたる閉めた店先つばめの巣　西岡　頌悟（新田青雲2）
くず入れの上にひしめくアイスの棒　大谷　正樹（城西3）
お盆の日祖母の玄関靴七倍　兵頭　秀平（済美平成2）
おさな子が空せみにぎり高い声　池本　真有（興居島1）

渡部　和寛　選

里帰りふろで歯磨く盆の夜　近見　晴海（松山西1）
島夜釣りすぎる思い出走る竿　井浦　泰（新田青雲2）
墓参り潮の香りの道しるべ　真柴　理奈（桑原2）
通信簿知らぬ顔する雲の峰　山﨑　実緒（南第二3）
渾身のファーストサーブ夏の風　大塚　健太郎（余土2）
○枝豆を無言で食すわれと父　直野　創太（拓南1）
リビングにみんな集まるかき氷　大西　拓也（松山城南2）
○夜ごと来るやもりに心癒されて　大野　雄生（済美平成2）

高等学校の部

高柳　克弘　選

打ち水のバケツで涼む雀かな　今井　萌（松山南1）
ひぐらしや塾の帰りに頭痛薬　菅　菜津美（松山中央2）
蝉鳴いて家の中にはキムチ鍋　二宮　りおな（松山南1）
夕暮れの物干し竿の浮輪かな　大濱　侑真（伊予1）
願書に書く施設の住所夜の秋　菊川　遼馬（松山聖陵3）

阪本　謙二　選

黒板を見ずにすごせる夏終わる　池内　悠英（松山南1）
炎天下それでも僕らは走り出す　木原　康介（松山工3）
せみの声夏がスピードあげてくる　佐藤　未希（松山城南3）
入道雲日におさまらず目を見張る　坂田　俊樹（済美1）
堂々と僕を迎える夏の山　竹森　圭佑（伊予1）

高石　幸平　選

夕立がかかえる胸の本濡らす　大塚　咲季（松山南1）
金魚鉢たゆたう水に赤ゆれる　中島　里実（松山中央3）
大皿に乗らぬ長さの秋刀魚かな　渡辺　万洋（松山城南1）
リビングにみんな集まるかき氷　大西　拓也（松山城南2）

福谷　俊子　選

○父の背が大きく見ゆる夜釣りかな　小林　周平（松山南1）
喉仏生まれ紫陽花膨らみぬ　今治　絵梨花（松山中央2）
校庭に腰掛けてをる炎暑かな　宮本　悠司（松山中央3）
○弓を引く一瞬せみの声消える　池田　遥（松山南1）
塾帰り少ししょっぱい夏の風　高田　華奈（松山中央2）

相原左義長　選

着慣れない浴衣で母と歩く夜　天野　有希子（松山南1）
○父の背が大きく見ゆる夜釣りかな　小林　周平（松山南1）
夏休み兄に会うため広島へ　青木　友実（しげのぶ特別支援3）
薄氷や合格発表見る背中　土居　翔太（松山工3）
ユニフォーム返して終わる僕の夏　船井　佑也（松山工3）

上原　白水　選

○弓を引く一瞬せみの声消える　池田　遥（松山南1）
一週間恋活はげむアブラゼミ　高須賀　大樹（松山中央2）
ふるさとの風を感じて赤とんぼ　久米　誠（松山中央1）
春風が戸惑う僕の背中押す　西原　翔生（松山工3）
違うから頬の火照りは初夏のせい　毛利　菜奈子（東温1）

お問い合わせは、(教)子規記念博物館事務所☎931-5556 6・FAX934-3416へ